

1 目的

(1) 指導力向上

授業力向上に重点を置いた研修を実施し、教育活動の質的な向上を目指します。

(2) キャリア教育の推進

自他の良さを認め合い、主体的に学び続ける生徒の育成を図ります。

(3) 学校体育研究の推進

「やってみたい 高めたい 続けたい」と自ら学ぼうとする生徒の育成を図ります。

2 内容

(1) 指導力向上

ア 生徒が学校行事で人々に感動を与え、達成感を味わうこと、さらに教師が専門的な指導にふれることで教科指導のスキルアップをするために、照喜名一男氏（名古屋音楽大学名誉教授）を講師に招き、合唱指導（9／16、2／7）を実施しました。卒業式に向けて、あと1日の合唱指導を計画しています。（2／28）

イ 学校体育研究の委嘱を受け、体育科の授業力向上を推進しています。森勇示氏（愛知教育大学教授）を講師に招き、授業研究会（10／4、11／9）を実施しました。

ウ 道徳の指導力向上のために、中村浩二氏（名城大学教職センター特別講師）を講師に招き、現職教育（1／16）を実施しました。

エ 護身術を学ぶために、滝本清三氏（尾張合気会会長）を講師に招き、2・3年生女子を対象として、体育の授業で合気道の授業を予定しています。（2／13～17、2／21、2／22、2／24）



森先生による
授業研究会の様子

(2) キャリア教育の推進

ア 勤労体験学習（2年生）の事前学習として、朝倉奈津江氏（研修インストラクター）を講師に招き、マナー講座（10／19、10／20）を行いました。また、事後学習として、体験を文集にまとめました。

イ 学級旗制作委員会を中心にクラス団結の象徴として学級旗を制作しました。また、全校生徒が一丸となって学校祭を創り上げようとする気持ちを盛り上げるために、生徒達が学校祭のテーマを考え、生徒会執行部がテーマ看板を制作しました。

(3) 学校体育研究の推進

ア 学校体育研究の健康づくり部会では、他人を思いやる心を育てる活動を行っています。人権感覚を育成するために、近藤真庸氏（岐阜大学教授）を講師に招き、人権講演会（12／6）を実施しました。

イ 学校体育研究の健康づくり部会では、自分の命や身体を大切にする心を育てる活動を行っています。寺本佑介氏（コア・テクノロジー株式会社代表取締役社長）を講師に招き、ケガの予防講演会（12／15）を実施しました。

3 評価

(1) 指導力向上

ア 照喜名先生の指導はたいへん情熱的で、少しでも子ども達の良さを引き出そうと一生懸命に指導をしていただきました。合唱指導を受けた生徒達は、学校祭の合唱で、調和のとれた歌声を披露し、聴く人に感動を与えることができました。特に、毎年の積み上げが3年生の素晴らしい合唱となって成果が上がっています。3年生のある保護者からは、「初めて合唱を聴かせていただいた。こんな素晴らしいものなら、1年生の時から参観すれば良かった。」という声が聞かれ、1年生のある保護者からは、「来年も必ず聞きに来ます。感動しました。」という声を聞くことができました。また、指導していただいたことは、日々の授業でも成果が出てきているようで、授業参観な

どでも、参観していただいた保護者から、「日々の積み重ねが、学校祭や卒業式の素晴らしい歌声につながるんですね。」と褒めていただきました。自信をもって歌う姿から、少しずつではありますが、合唱を通して自己肯定感を高めることができていると感じています。

イ 森先生の指導を受けた教師達は、体育の指導の在り方を根本的なところから変えることができました。おかげで、生徒達の運動量を十分に確保するという体育の授業の本来あるべき姿を追究することができました。授業を通じて生徒達は、多くの技能を習得し、自ら進んで体力づくりに励んでいます。

ウ 毎年、学校評価の結果を見ると、教師・生徒共に道德の授業に対する意識が低く、取組も十分ではありません。中村先生に道德の取組に対する意識や基本的な授業の進め方を教えていただき、教師たちは、道德の授業への意識を高めることができました。教えていただいたことを元に、授業に取り組む教師もいました。次年度以降も引き続き、中村先生を講師に招き、道德の授業の実践に努めていきたいと考えています。

エ 「自分の身は自分で守る。」万が一の場合に備えて、自分の身を守る方法を学ばせると同時に、防犯意識の高揚を図るため、今年度、初めて滝本先生を講師に招き合気道の授業を行います。他校での実践を聞いたところ、「生徒のためにととても良い授業だった。」「先生の指導方法は授業の参考になる。」という感想を聞いています。今後行われる授業を楽しみにしています。

(2) キャリア教育の推進

ア 朝倉先生による勤労体験学習に向けてのマナー講座で学習したことは、日常生活の随所で生かされています。また、3年生になってからの高校見学の際にも役立っています。専門の講師から学ぶマナーの基本は、中学2年生の生徒達にとって初めて知ることが多く、意義深い体験の場となりました。さらに、教師にとっても、自身の言動や日頃の指導方法を見直す良い機会となりました。



朝倉先生による
マナー講座の様子

イ 学級旗制作を学校祭に併せて行うことで、学級への帰属意識が増しています。また、学校祭は、運動が苦手な生徒にとっては活躍する場面が少なくなりがちですが、学級旗制作へのアイデアを出したり、制作に携わったりすることで活躍の場ができた生徒もいます。また、全校生徒から学校祭のテーマを募集し、執行部が中心となってテーマ看板を作ることによって、学校祭を生徒が自ら創り上げるという雰囲気が高めることができました。

(3) 学校体育研究の推進

ア 昨年度に引き続き、岐阜大学の近藤先生を講師に招き、「愛すること・生きること」というテーマで講演会を開催しました。近藤先生の経験談から、いじめを許さないことや周りの人との交流方法、今後どのように生活していけば良いのかを教えてくださいました。学校評価の結果からも人権に対する意識が高まったことが分かります。生徒の心に響く素晴らしい時間となりました。

イ 昨年度に引き続き、寺本先生を講師に招き、2年生を対象として、ケガの予防講習会を開催しました。学校で多く発生しているケガを中心に、予防法と対処法を教えてくださいました。生徒達は、ケガの仕組みや体づくりのための食べ物の選び方などについて、メモをとりながら真剣に聞いていました。また、簡単にできるストレッチを体験し、自分の体について考えることができました。事後アンケートからは、ケガに気をつけて生活しようとする生徒が増えたことが分かりました。

4 課題

保護者や生徒、地域からの信頼を得るためには、教育活動のさらなる向上や発展を目指さなければなりません。特色ある学校づくり推進事業において、さまざまな取組を実施することによって、教師力の向上をはじめとして多くの成果を上げることができました。その一方で、生徒の主体性や創意工夫を伸ばす方法や地域との連携など、本校の課題も明確になってきています。

次年度以降も引き続き、「当たり前のことが当たり前のできる生徒・教師」をキーワードに、全職員が力を合わせ質の高い教育活動を展開していきたいと考えています。